

尾瀬ネットワーク通信

Vol 1 4. No. 2 2011年8月



目次

尾瀬の東京電力所有地は国有化を	…1
福島県側 第1回入山指導等報告	…2
福島県側 第2回入山指導等報告	…2
群馬県側 第1回入山指導等報告	…2
福島県側 第3回入山指導等報告	…3
群馬県側 第2回入山指導等報告	…3
群馬県側 笠が岳自然観察会報告	…4
事務局だより	……………4

尾瀬の東京電力所有地は国有化を

～東京電力と環境省に要望書を提出～

理事長 永島 勲

去る3月11日に発生した東日本大震災により尾瀬国立公園においても様々な影響が出ている。

原発事故の風評被害による入山者の減少、東京電力の尾瀬所有地の売却問題、3県知事と東京電力社長が参加する尾瀬サミットの中止、さらに自然保護施策の後退懸念などが挙げられる。

尾瀬の土地所有形態

尾瀬国立公園は総面積3万7200haの約43%を民間の一企業である東京電力が所有する極めて特殊な所有形態となっている。同社は、これまで安定した経営と豊富な資金力により永年にわたり尾瀬の自然保護に尽力してきた。同社の経営理念により観光開発や営利目的の分割譲渡なども起こらず、貴重な自然が残されたことは高く評価される。

しかし、同社の福島第一原子力発電所の重大な事故により、経営環境は激変した。原発事故の賠償金等の莫大な費用捻出のために、経営合理化や所有資産の売却などで、従来のように尾瀬の自然保護に経営資源を投入することは困難とされている。

東京電力の所有地は国有化を

尾瀬はこれまで先人たちの血のにじむような闘いによって、幾度も開発の危機を乗り越え、掛け替えのない自然が守られてきた。このため、尾瀬は日本における自然保護運動の発祥の地と言われている。尾瀬は湿原・池塘・沼に代表される特有な生態系が営まれ、学術的にも高い価値を有している。その核心部は特別保護地区及び特別天然記念物に指定され、湿原などの脆弱な自然はより厳重な保護が必要である。

当会は8月25日に東京電力本店へ30日に環境省に東京電力の尾瀬所有地の国有化の要望書を

提出した。その骨子は、東京電力が尾瀬所有地を売却する場合、①尾瀬の自然保護（生態系保全）を最重視する ②環境省による一括買い上げ（国有化）を基本とする ③観光開発や営利目的の民間の企業や外国資本等への売却は絶対に行わない。

将来に禍根を残すことのないよう、国有化に向けた両者の英断を強く望みたい。

当会による鳩待峠における入山者へのヒアリングでも所有地売却の関心は非常に高く、売却先として「国」を挙げ、「営利目的の民間企業や外国資本への分割売却は行うべきでない」という意見が大多数だった。

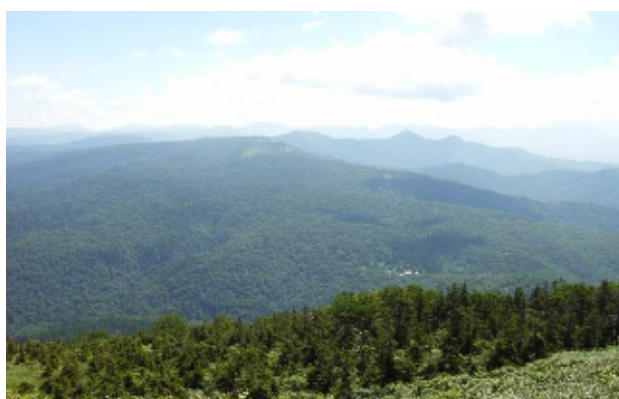
国立公園の新たなモデルケースに

日本は狭い国土ゆえに土地の所有形態にかかわらず「地域制公園」として優れた風景地を国立公園として指定してきた。

一方、アメリカは「営造物公園」として国立公園内の土地を全て国（国立公園局）が所有し、公園内におけるあらゆる権限を有するシステムになっている。

尾瀬は平成19年8月に日光国立公園から分離独立し、尾瀬国立公園として新たに誕生したが、国立公園の維持管理を土地所有者に負担させることなく、国有化によって環境省が責任をもって開発や破壊から自然を保護し、ハード・ソフト両面から一元的に管理・運営を行うシステムを強く望む。そのためには環境省には十分な予算と権限の付与が必要だ。尾瀬が日本の国立公園における新たなモデルケースとなるためには「生態系保全の徹底」と「賢明な利用」とのバランスを図ることが重要である。

尾瀬が日本における真の国立公園の先駆者として、掛け替えのない貴重な自然が後世に引き継がれるよう、眼を凝らして注視していきたい。



東京電力所有地の「鳩待峠～アヤマ平」方面を望む
(平成22年7月24日、小至仏山中腹にて撮影)

活 動 報 告

福島県側 第1回入山指導等報告

福島県側担当理事 円谷光行

1. 日時：5月28日（土）曇～29日（日）雨
7:00～11:00 添乗解説・入山指導・NW活動資金協力依頼 11:00～16:00 尾瀬自然ガイド実践
2. 場所：添乗解説等→尾瀬御池～沼山峠駐車場
自然ガイド実践→大江湿原等
3. NW活動資金協力金額（「資金カンパ金額」の名称変更）：2,810円
4. 活動概要：

◆28日：ミズバショウの開花状況や残雪状況を把握するため、前日に坂本さんと伊藤さんは大清水から尾瀬沼、大江湿原の方面から入山し、その新鮮な情報を添乗解説・入山指導・啓発活動に生かして活動を行いました。

この時期のミズバショウは、小さく可憐さが漂って春の尾瀬を告げている。5月4日の残雪調査結果のとおり、例年より湿原のあちこちに残雪があり、沼山峠登山口から大江湿原入口まで汗ばむ体を癒してくれました。

観察会に同行した一組の夫婦へガイドを行い、植物の特徴や自然の魅力を説明すると、「今まで色んな山々を旅しましたが、初めて詳しい解説を聞き新たに登山への興味をもてた」と言って尾瀬を後にしました。

◆29日：朝から小雨、尾瀬ロッジに預かって頂いているテントを張り、テーブルをセットして通常通りの活動を行ったが、東日本大震災の影響でハイカーは例年の1/3程度で、ロッジや会津バス関係者等も大変な不安や心配でいっぱいでした。

5. 参加者：伊藤アケミ、熊田順子、小林恵子、坂本敏子、高橋 喬、円谷光行、藤田隆美

福島県側 第2回入山指導等報告

福島県側担当理事 円谷光行

1. 日時：6月10日（金）曇 14:00～15:15
シカ食害調査（発芽状況）
*11日（土）小雨のち曇 7:00～11:00 添乗解説・入山指導・NW活動資金協力依頼
11:00～15:30 オサバグサ生育状況調査
*12日（日）7:00～11:00 添乗解説・入山指導・NW活動資金協力依頼
2. 場所：添乗解説等→尾瀬御池～沼山峠駐車場
帝釈山→台倉高山
3. NW活動資金協力金額：8,450円
4. 活動概要：

◆10日：今年は霜が降らなかったことで「ミズバショウがここ数年では、最高に咲き誇り見事です」と尾瀬沼ヒュッテ支配人が話すとおり、白い仏炎苞は春の湿原を静かに彩りました。

シカ食害調査最終年度、ニッコウキスゲの発芽定数調査は木道を歩くハイカーの妨げにならないよ

う金曜日の午後から開始しました。3年連続発芽した食害状況の根一本一本を中腰になり数えた坂本、伊藤さんの取り組み姿勢に心打たれました。

調査中に大江湿原（尾瀬沼に向かって左側）の小淵沢田代とヤナギランの丘の中間地点の林縁沿いで獣道（シカの通り道）に、「足のくくり輪」の設置を環境省松枝岐自然保護官事務所と松枝岐



シカ捕獲設置作業中の用具

猟友会の数名の皆さんで作業している姿を木道から見ました。昨年の松枝岐地区での捕獲頭数は、60頭と公表されました。

◆11日：通常どおり添乗解説等を行った後、帝釈山・台倉高山のオサバグサの生育調査。葉は薄緑で花は咲き始めたばかり、林床一面の開花期のその美しさに驚くであろうと思い、後にしました。また、盗掘された土壌形跡は見られませんでした。

5. 参加者：伊藤アケミ、亀山良吉、小林ミヨ、小鮒 守、坂本敏子、円谷光行、永島 勲、藤田隆美

群馬県側 第1回入山指導等報告

群馬県側担当理事 清水博之

1. 日時：2011年6月18日（土）曇のち雨
7:30～9:30 鳩待峠
10:30～14:00 山の鼻（研究見本園）
2. 状況：今年から活動の開始時間を30分早めたこともあり、350～400部のリーフレットを配布して入山指導・案内を行った。
（1）東日本大震災や福島原発の影響は、感じられなかった。
（2）四日市から100人を超える団体が入山したが、総体的に軽装姿の人は少なかった。
（3）至仏山は6月末まで登山禁止となっていて、ワル沢には多くの残雪があった。
（4）研究見本園には、多くのミズバショウ、リュウキンカ、タチツボスミレ、チングルマなどが咲いていたが、シカにより荒廃されたとみられる場所が数箇所あった。中には、30～50m²位のも（ヌタ場）あった。
（5）鳩待峠～山の鼻には、アズマジャクナゲ、ムラサキヤシオ、エンレイソウ、ミネザクラ、シラネアオイ、ユキザサなどで初夏が真近いことを

感じさせた。

3. 蝶の観察：今年から、尾瀬に生息している蝶類の調査を計画していたが、あいにく雨のため飛翔がなく確認できなかった。次回の7月24日に期待したい。

4. 参加者：伊藤アケミ、大山昌克、小鮒 守、坂本敏子、椎名宏子、清水博之、永島 勲、長島睦世、松沢 登

福島県側 第3回入山指導等報告

福島県側担当理事 円谷光行

- 日時：7月15日（金）曇 13：00～16：30 シカ食害調査（開花状況）
*16日（土）晴 5：30～11：00 添乗解説・入山指導・NW活動資金協力依頼 11：00～16：40 ツバメオモト温暖化調査・オランダガラシ調査・上田代湿原観察会
*17日（日）7：00～11：00 添乗解説・入山指導・NW活動資金協力依頼
- 場所：添乗解説等→尾瀬御池～沼山峠駐車場・キリンテ・白砂湿原
- NW活動資金協力金額：7,900円
- 活動概要：

◆15日：昨年のニッコウキスゲの花はヤナギランの丘周辺から咲いていましたが、今年は小沢沢田代分岐点の中間から木道沿いより先にも咲き花芽も少しありました。以前の満開時とは想像はつかないが、今後もシカ捕獲によりどのような変化を及ぼすかを確かめていきたい。

◆16日：毎年ハイカーのピークを迎えるこの時期、尾瀬の自然をみんなで守り、みんなで楽しむための入山指導の充実を図るため、御池ロッジに宿泊

し朝5時半から夏の朝日を浴びながら静かな尾瀬の雰囲気大切に活動を行いました。

入山指導活動後は、3班に分かれそれぞれの調査に入りました。キリンテ中間地点にあるツバメオモトの温暖化影響による生育状況調査へ担当の初谷理事と藤田氏が行き、白砂湿原に植生するオランダガラシの繁殖状況調査へ永島理事長と小鮒氏が行いました。また上田代湿原の植物生育調査及び観察会は、高橋理事を含め5名で行いました。
◆17日：活動最終日も通常通り午前7時から疲れを見せず、全員山の朝の涼しさを感じながら元気に活動を行い、活動終了しました。

5. 参加者：磯辺義孝、亀山良吉、小鮒 守、坂本敏子、高橋 喬、円谷光行、永島 勲、初谷 博、藤田隆美



調査中、盲点を突いて通過？

▲ネットワークの活動資金の確保のため「資金カンパ」として寄付をお願いしてまいりましたが、ハイカー等から資金カンパに対する社会的違和感があると異議申し出があったため、福島県側では検討した結果、今回途中から「NW活動資金の協力をお願いします」と名称を改め、意思のある方をお願いすることになりました。

ニッコウキスゲ「開花状況」調査比較表（ ）内は食害本数

木道左右	調査地点	年度	①大江湿原 入口地点	②小沢沢田代 分岐点	②と④の 中間地点	④ヤナギラン の丘分岐点	⑤三本カラマツ 分岐点
右側	No.1	21	8(0)	0(0)	16(4)	0(0)	19(0)
		22	6(35)	1(0)	1(51)	0(0)	6(20)
		23	11(6)	1(0)	52(2)	1(0)	39(0)
	No.2	21	11(6)	1(0)		6(0)	4(1)
		22	2(21)	0(17)		1(9)	2(4)
		23	3(2)	10(0)		12(0)	14(0)
左側	No.3	21	0(0)	4(1)	24(3)	14(1)	15(0)
		22	2(22)	0(0)	3(76)	1(29)	5(22)
		23	9(3)	2(6)	25(26)	22(2)	48(0)
	No.4	21	0(0)	5(0)		3(0)	22(4)
		22	0(5)	0(6)		4(22)	6(4)
		23	4(0)	6(0)		16(1)	2(2)

群馬県側 第2回入山指導等報告

群馬県側担当理事 清水博之

- 日時：2011年7月24日（日）曇のち時々晴
7:30～9:30 鳩待峠
10:30～13:30 山の鼻、研究見本園、尾瀬ヶ原
- 状況：今回は、初めて日曜日の活動を行った。先週の3連休もあり、土曜日と比較して若干入山

者が少ないようであったが、関係者の話では例年と変わりはないとのこと。6月18日とほぼ同じ400部位のリーフレットを配布し、入山指導を行った。

9時半ごろ山の鼻へ下り、その途中と研究見本園、さらに尾瀬ヶ原で蝶の観察を行った。

(1) 蝶は、ミドリヒョウモン、ウラギリヒョウ

モンが多く、コムラサキも観察できた。



蝶の調査：ミドリヒョウモン

少し風が吹き気温が下がると姿が見えなくなり、晴れ間が出ると飛翔する。蝶により、訪花と獣糞などから吸水、吸汁する。

(2) ニッコウキスゲは、盛りを過ぎていたものの、いつもの年よりかなり少なかった。

(3) 開花の主なもの：ミヤマカラマツ、ヤマブキショウマ、ミズチドリ、トキソウ、キンコウカ、ノアザミ、コバギボウシ、トキソウ、ヒツジグサ、コウホネなど

(4) ハッチョウトンボが、牛首手前で見られた。

3. 参加者：大山昌克、小鮎 守、坂本敏子、清水博之、鈴木誠一、永島 勲、前田悦子、松村一徳



笠が岳：植生調査

ベニヒカゲやキベリタテハ、クロヒカゲなどで、豊富な植物に多くの昆虫や動物類も共生している。

3. 開花の種類：ニッコウキスゲ、タテヤマリンドウ、イワイチョウ、キンコウカ、オトギリソウ、ミネウスユキソウ、ミズギク、イワツメクサ、イブキジャコウソウ、タカネナデシコ、カラマツソウ、ゴゼンタチバナなど

4. 参加者：伊藤アケミ、大山昌克、川 一男、小鮎 守、坂本敏子、清水博之、永島 勲、長島睦世、堀敏男、堀久江

群馬県側 笠が岳自然観察会報告

群馬県側担当理事 清水博之

1. 日時：2011年8月6日（土）

7：00～16：30 曇時々晴

2. 状況：7月28日から新潟・福島地方に局地的な豪雨があり、尾瀬地域も大きな打撃を受けた。戸倉～鳩待間が交通止めになったり、尾瀬ヶ原および見本園でも木道が流失したり冠水があったりして入山が危ぶまれていたが、8月3日早朝から鳩待峠までの通行が可能となった。この間、数か所で道路の崩壊や土砂くずれがあり、笠科川には流木の残がい痛ましい様相を目にした。

鳩待峠には、人の姿もなく閑散としていた。笠が岳や至仏山への登山道の状況は不明であったが、天候もまずまずであったので7時に予定どおり出発した。

オヤマ沢田代までは、道が深く削りとられ土囊のようなどころがあり、豪雨のすさまじさが想像された。樹林帯を抜けて悪沢岳を過ぎると、登山道も思ったより良好で時々青空が覗かれた。

11時半に笠が岳山頂と湯の小屋分岐に到着し、片藤沼へと向かった。沼の周辺には道がなく湿地帯で、キンコウカが多く見られた。荒廃されていないのが何よりであった。笠が岳の斜面一帯には、ニッコウキスゲなどが咲きほこり素晴らしい光景で感動の一言であった。

植生の調査は、昨年と同じ2地点で行ったが、種類も多く豊かな自然が維持されていることを確認した。(詳細別途)

昨年は気づかなかったが、樹林帯の中でシカの足跡らしきものを見たがシカの進出が広範囲になっていることが憂慮される。

蝶は、長野県の天然記念物に指定されている

事務局だより

1. 8月1日、環境省（松枝岐事務所）に移入植物（白砂湿原のオランダガラシ）除去の申請書を提出。8月22日付で認可を頂きました。除去作業には会員のご協力をお願いします。

2. マロニエ医療福祉専門学校（栃木市）で尾瀬のゴミ回収を実施。同校作業療法学科の学外学習は、昨年に続き尾瀬で実施。当会の岡田岳指導員を講師として事前学習を実施。生徒16名、教員4名が参加し、7月7日は至仏山に登山。8日は沼尻近くに投棄されたゴミの回収を行いました。このゴミ回収は同校の文化祭（7/17）において尾瀬の自然展の中で報告されました。

NPO 尾瀬自然保護ネットワーク

Vol.14 No.2号 2011年8月20日 発行

発行人：永島 勲

編集担当：鎮目 安康

(1) 本部事務所

〒969-0404

福島県岩瀬郡鏡石町旭町19 円谷方

電話・FAX 0248-94-5003

(2) 群馬支部

〒370-0001

群馬県高崎市中尾町762-16 清水方

電話 027-361-8055

(3) 事務局

〒263-0051

千葉県稲毛区園生町1223-11、D-307 前田方

電話・FAX 043-252-2604

Web : http://www.geocities.jp/oze_net/

